

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
27-59	高等学校	家 庭	家庭基礎	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
7 実教	家基 315	新家庭基礎 21		

1. 編修の趣旨及び留意点

- ① 基礎科目という性格を考慮し、社会において生活者として自立することを目指して、自立の意義を確認し、自立して生活する能力を身につけるための内容を1編「自立して生きる」とし、続いて異なる世代・人々と関わり共に生きる力を育てる内容を2編「支えあって生きる」という形でまとめた2編構成とした。
- ② 各節をタイトルが問いかけ（テーマ）の形の2ないし4ページ単位のテーマ形式とし、具体的な生活課題とそこで学ぶ内容との結びつきを生徒が理解しやすいようにした。
- ③ 生活の充実向上を図る能力の養成という観点から、節末に「確認」、章末に「明日へつなぐ視点」、各所に探究・実践活動を扱う「課題学習」と環境・福祉等に関する課題を扱う「持続可能性の視点」を置き、現代生活の課題につき問題解決の方向性も含めより深く考えられるようにした。
- ④ 消費生活化する現代生活の状況を踏まえ、食・衣・住の章においても、持続可能な社会の構築に向けて消費者・生活者として考えるべき視点を持つことを重視した。

2. 編修の基本方針

教育基本法第2条の目的を達成するために、以下のような方針で編修を行った。

○基本方針

1. 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から（第1号）、現代が抱える課題や問題点を本文以外の囲み等でも扱った。
2. 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から（第2号）、「自立」の観点を特に重視し、さらに考えたり調べたりする探求・実践活動を各所に盛り込んだ。
3. 男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う観点から（第3号）、囲み等で関連テーマを扱うと共に、各章末においても配慮した。
4. 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養う観点から（第4号）、見返しページ等で、地球環境の現状、持続可能な社会に向けての取り組みを扱った。また生活に関わる営みの維持・持続のために考えるべき投げかけを随所に設けた。
5. 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する観点から（第5号）、食・衣・住生活や環境特別ページ等で伝統文化や地域社会の再評価について扱った。

○1編1章 「自立する」とは？

(1)食・衣・住や消費生活等の、生活者として自立する能力を身につけるための学習に先立って、生徒が直面する青年期の課題と自立の意義を確認することができるようにした。

(2)高校生の年代では、社会において自立して生活するためには、他の自立に加え、男女の平等や相互の協力の基礎となる性的な自立が必要であると考え、特に節を独立させて解説した。

○1編2章 楽しく安全に食べる

(1)食事と健康に関して個人の問題から社会的な問題まで幅広く考える視点から、食生活の変化等の個人の食生活の問題を先に学習し、続いて栄養、食品、調理等に関する基礎的・基本的な知識と技術を学び、最後に食料自給率の低下等の社会的な問題について学ぶ構成とした。

(2)調理実習では、基本的な調理技術の習得を目的とし、手法や和洋中等の種別に極端な偏りがないよう配慮した。各実習ではイラストを多用し手順がわかりやすいように工夫した。

○1編3章 選んで着る

(1)衣生活に関する生徒の関心の低下を考慮し、生活と直接結びつく衣服選択の意味や衣服に関するトラブル等についての知識を先に学習し、続いてそれと関連する材料や管理、最後に衣服の機能等について学ぶ構成とした。

(2)衣生活についての環境保全の観点から、アジア等から輸入される安価な衣料の使い捨ての問題を、特別の節を設け、生産・消費・廃棄の面から考えられるようにした。

○1編4章 人間らしく住む

(1)自主・自律の観点から、独立してひとりで住み始める「ひとり暮らし」の場合の住居選択をまず扱い、住居の条件について身近な問題として考えることができるように配慮した。

(2)住生活に関する環境保全については、住居の改善と共に、ライフスタイルやまちの住環境という点においても配慮や新たな転換が必要であることを取り扱った。

○1編5章 消費社会を生きる

(1)情報化・グローバル化が進展しパソコン・スマートフォン等を利用した電子商取引が一般化している状況を踏まえ、最初に現状についての知識を学ぶ構成とし、消費者被害の内容も電子商取引の問題を先に扱う形とした。

(2)消費者各自が、環境を考え持続可能な社会を築く権利の主体として行動することが求められている現状に対し、「消費者市民社会」の実現を重要な目標として置き説明を行った。

○環境特別ページ 地球と共に生きる「豊かなライフスタイル・暮らし」とは？

「ライフスタイルと環境」の問題は、食・衣・住生活及び消費生活全体に関わる問題であることを考慮し、「特別ページ」として、1編全体のまとめとして1編の最後に置いた。また、ライフスタイルの見直しの一環として、地元＝郷土の価値の再評価についても取り上げた。

○2編1章 多様化した社会を生きる

(1)家族と家庭、家族に関する法律と制度等について、個人の価値の尊重や男女の平等の観点から、個人の多様性を認め男女共同参画社会を推進する方向で現在の課題などを扱った。

(2)個人の生き方や家族・共同生活のあり方が国際的にも多様化している現状を踏まえ、特定の生き方や家族のあり方を標準化しないように配慮した。

(3)職業と生活の関連について、それを難しくしている日本の労働の現状とそれを改善するためのワークルールについても必要な知識が学べるようにした。

○ 2 編 2 章 子どもと生きる

(1)子どもが育つ環境の変化や保育の場の広がり，親子間の問題等こんにちの子どもを取り巻く状況を踏まえながら，子どもの発達や生活についての理解を深めることを基本に置いた。

(2)親になることの意味と共に，子育てにおける男女の協力，親や家族だけではなく地域や社会で子育てを支援することの重要性という観点で教材を選定した。

○ 2 編 3 章 支えあい・共に生きる

(1)福祉・社会保障制度の問題は，高齢者福祉だけでなく，生涯を通じて関わる制度として幅広い知識が必要で，またこれからの生活者として必要な教養であるにとらえ，福祉・社会保障の一般的な理解・知識から，個別の問題・制度に入る構成とした。

(2)共生社会さらにノーマライゼーションや社会福祉の観点からも併せて扱うことが理解しやすいと考え，高齢者だけでなく障がい者や貧困の状況にある人も対象として解説を行った。

○ 明日に向けて

(1)「生活設計」では，これまでに学習した内容のまとめとして，高校生が生活設計を立てるうえで考慮すべき点を解説した。さらに将来の職業生活へ向けての準備のための演習と郷土を見直しその課題を考える演習を取り上げた。

(2)「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」では，ホームプロジェクトの実践例として自らの生活の改善を主体的に考えるというねらいのもと，短期間に成果が得られる身近な課題と，家族の協力が必要で地域の取り組みとも関連する時間のかかる課題の2つを取り上げた。

3. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該 当 箇 所
・これからの世界と私たち①②	・教科書の冒頭で，持続可能な社会へ向けての国際的な動きを理解させ，家庭科を学ぶ前提として，日本の高校生としてこれからの生活をどう考えていけばよいかを考えさせるようにした(第4号)。	・カラーページ I ~ p. 1
・1編1章「自立する」とは?	・衣食住・消費生活の学習に先立ち，自立の意義を確認できるようにした(第2号)。 ・男女平等・相互協力の基礎となる性的自立の課題を独立した節で解説した(第3号)。	・ p. 14~19 ・ p. 16~17
・1編2章 楽しく安全に食べる	・食料自給の問題を，環境の視点からも考えられるようにした(第4号)。 ・生活における自立を目指し，調理実習について手順を丁寧に解説した(第2号)。	・ p. 58~59 ・ p48~55
・1編3章 選んで着る	・衣服と健康の結びつきを理解させるため，衣服選択の意味とトラブルを冒頭で扱った(第1号)。 ・衣生活に関する環境保全に関し，使い捨てるの現状などにつき特別の節を設けて扱った(第4号)。	・ p. 64~65 ・ p. 76~79
・1編4章 人間らしく住む	・自主・自律の観点から，ひとり暮らしの際の住居選びから住居の条件を考えさせた(第2号)。 ・環境保全について，特別の節を設け扱った(第4号)。	・ p. 86 ・ p. 92~93
・1編5章 消費社会を生きる	・パソコン・スマートフォン等を利用した電子商取引が一般化している現状を踏まえ，まずそのような状況についての知識を学ぶ構成とした(第1号)。 ・消費者が主体的に持続可能な社会の形成に関わる観点として消費者市民社会の実現を重要な目標に置き，解説した(第3・4号)。	・ p. 101~103, 114 ・ p. 120~123

・2編1章 多様化した社会を 生きる	・家族・家庭及び関連する法律・制度について、個人の尊重・男女平等の観点から個人の多様性と男女共同参画社会推進の方向で解説した(第2・3号)。 ・職業と生活の関連について、日本の労働の現状やワークルールなども含め解説した(第1・2号)。	・ p. 132～137 ・ p. 138～141
・2編2章 子どもと生きる	・子どもを取り巻く現状と問題を理解したうえで子どもの発達や生活への理解を深める構成とした(第1号)。 ・親となることの意味と共に、子育てにおける男女の協力や地域・社会の支援の重要性を強調した(3・4号)。	・ p. 146～163 ・ p. 164～165
・2編3章 支えあい・共に 生きる	・社会福祉・社会保障に関する知識・制度は、これからの生活者には必要な教養であるにとらえ、一般的な制度の理解・知識から学ぶ構成とした(第1号)。 ・共生社会・ノーマライゼーション・社会福祉を全体的に理解する観点から、高齢者だけでなく障がい者や貧困の状況にある人の問題も扱った(第3号)。	・ p. 168～171 ・ p. 176～179
・各章末	・「明日へつなぐ視点」として今後の生活の改善の方向を示すと共に、「若者は今、こんなことを」という形で社会の改善に取り組む若者の活動例を示した(第2・3号)。	・ p. 20～21, 60～61, 82 ～83, 98～99, 124 ～125, 142～143, 166～167, 182～183
・環境特別ページ 食の健康, 衣住 の環境部分	・環境の保全, 健康に関しては, 伝統的な生活文化の再評価や地域社会の再生が必要であることを解説した(第4・5号)。	・ p. 126～127, p. 24, 76, 92

4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

学校教育法第51条の目標を達成するために、以下のような点に意を用いて編修を行った。

- ① 冒頭の「これからの世界と私たち」で、今後の生活者として最も重要な視点である「持続可能な社会」の実現に向けての世界的な取り組みを紹介し、さらに持続可能性と公正・公平の問題を考えさせることによって、この問題を現代の高校生の課題としてとらえることができる態度を養えるようにした。
- ② 基礎科目という性格から、社会において生活者として自立することがまず必要と考え、食・衣・住生活と消費生活を1編として先に学び、自立して生活するための知識・技能を先に習得できるようにした。
- ③ 各所に「現代の窓」などの「囲み」を設け、現代社会における生活上の問題・課題について解説し、現代の生活課題についての知識・教養を習得できるようにした。
- ④ 各節末に「確認」を置き、その節で学んだ内容についてより深い理解が得られるようにした。また各章末に「明日へつなぐ視点」を置き、今後の社会の改善の方向について考えさせることによってその章で学んだ内容についてさらに認識を広げることができるようにした。
- ⑤ 各所に、探究・実践活動を扱う「課題学習」、環境・福祉等に関する課題を扱う「持続可能性の視点」を置き、生活上の問題について健全な批判力が養えるようにした。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
27-59	高等学校	家 庭	家庭基礎	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※ 教 科 書 名		
7 実教	家基315	新家庭基礎21		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

- ・各節のタイトルを問いかけ(テーマ)の形として、その節の学習内容と具体的な生活課題との結びつきを生徒が理解しやすいようにした。
- ・節の最後には「確認」という問題を置き、基礎的・基本的な知識の確認ができるようにし、さらに各所に探究・実践活動を扱う「課題学習」や環境・福祉等の問題を考える「持続可能性の視点」を置いて、学習内容と関連する生活課題との関係が考えられるようにした。
- ・章の最後の「明日へつなぐ視点」の中に設けた「若者は今、こんなことを」では、関連する活動にたずさわる若者や若者の参加する団体を紹介し、社会への参画・貢献の重要性について意識させるように配慮した。
- ・章の構成に関しては、まず社会において生活者として自立することを目指して、自立の意義を確認し、自立して生活する能力を身につけるための内容を1編「自立して生きる」としてまとめ、続いて異なる世代や人々と関わり共に生きる内容を2編「支えあって生きる」という形でまとめた2編構成とした。
- ・上記の方針から、学習指導要領の「(1)ア 青年期の自立と家族・家庭」のうち、ライフステージの特徴と課題、青年期の課題と自立については1編1章、残りの内容である家族・家庭の特徴、家族に関する法律・制度、仕事と生活の調和の問題は2編1章で扱った。
- ・「(2)オ ライフスタイルと環境」の内容の多くは、消費生活との関係が深い。その点を踏まえ大部分は1編5章で消費生活と共に扱い、生活意識とライフスタイルの見直しのみ1編全体のまとめとして「環境特別ページ」という形で扱った。
- ・「(1)エ 共生社会と福祉」の内容のうち、子育て支援の部分に関しては、親や家族だけでなく地域・社会で子育てを支援するという観点から、2編2章で子どもの発達と保育と共に扱った。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導 要領の内容	該当箇所	配当 時数
1編1章1節 これからの生き方をどうデザインする？	(1)ア	p. 10～13	3
1編1章2節 青年期の自立をどう実現する？	(1)ア	p. 14～15	
1編1章3節 よりよい人間関係を築くには？	(1)ア	p. 16～17	
1編1章4節 ひとりで暮らすために必要なこととは？	(1)ア	p. 18～19	
1編2章1節 からだと心の健康をつくる食生活とは？	(2)ア	p. 22～25	12
1編2章2節 どれだけの栄養が必要か？	(2)ア	p. 26～29	
1編2章3節 栄養素のはたらきとは？	(2)ア	p. 30～37	
1編2章4節 食品をどう見分けるか？	(2)ア	p. 38～41	
1編2章5節 食品を扱う際に注意する点とは？	(2)ア	p. 42～43	
1編2章6節 食事づくりのポイントとは？	(2)ア	p. 44～55	
1編2章7節 食の安全は守られているか？	(2)ア	p. 56～57	
1編2章8節 日本の食の課題とは？	(2)ア	p. 58～59	
1編3章1節 今 何を着ている？	(2)イ	p. 62～63	7
1編3章2節 衣服でこんなトラブルが？	(2)イ	p. 64～67	
1編3章3節 衣服は何でできている？	(2)イ	p. 68～71	
1編3章4節 洗濯・手入れ、考えている？	(2)イ	p. 72～75	
1編3章5節 衣服はどこからどこへ？	(2)イ	p. 76～79	
1編3章6節 衣服を着る意味とは？	(2)イ	p. 80～81	
1編4章1節 人間にとって住まいはなぜ必要か？	(2)ウ	p. 84～85	5
1編4章2節 住まい選びの視点とは？	(2)ウ	p. 86～87	
1編4章3節 住まいの間取りから何が読み取れるか？	(2)ウ	p. 88～89	
1編4章4節 健康で安全な住まいとは？	(2)ウ	p. 90～91	
1編4章5節 環境に配慮した住まい・住み方とは？	(2)ウ	p. 92～93	
1編4章6節 共に生きる住まい・まちとは？	(2)ウ	p. 94～95	
1編4章7節 住まう場を創り育てる方法とは？	(2)ウ	p. 96～97	

1編5章1節	私たちをとりまく消費生活はどうなっているのか？	(2)エ	p. 100～101	9
1編5章2節	情報化のなかでの消費生活とは？	(2)エ	p. 102～103	
1編5章3節	グローバル化のなかでの消費生活とは？	(2)エ	p. 104～105	
1編5章4節	自立した生活に必要なお金の管理とは？	(2)エ	p. 106～107	
1編5章5節	「金融自由化」のなかでのお金の管理とは？	(2)エ	p. 108～109	
1編5章6節	「商品を買う」とはどういうこと？	(2)エ	p. 110～113	
1編5章7節	消費の際に巻きこまれるトラブルとは？	(2)エ	p. 114～115	
1編5章8節	消費者トラブルに立ち向かうためには？	(2)エ	p. 116～119	
1編5章9節	消費者としての自立とは？	(2)エ	p. 120～121	
1編5章10節	環境と公正を考えた消費とは？	(2)オ	p. 122～123	
環境特別ページ	地球と共に生きる「豊かなライフスタイル・暮らし」とは？	(2)オ	p. 126～127	1
2編1章1節	家族はどう変わってきたか？	(1)ア	p. 128～129	6
2編1章2節	家族をめぐる課題とどう向き合う？	(1)ア	p. 130～131	
2編1章3節	家族をめぐる法律はどうなっている？	(1)ア	p. 132～135	
2編1章4節	多様な生き方の保障とは？	(1)ア	p. 136～137	
2編1章5節	ライフキャリアをどうつくる？	(1)ア	p. 138～141	
2編2章1節	子どもから何を感じる？	(1)イ	p. 144～145	7
2編2章2節	子どもが育つ環境はどうなっている？	(1)イ	p. 146～147	
2編2章3節	子どもの育ちを支える場とは？	(1)イ	p. 148～149	
2編2章4節	子どもはどのような権利を持っている？	(1)イ	p. 150～151	
2編2章5節	子どもを育てるのにどのような支援がある？	(1)エ	p. 152～155	
2編2章6節	子どもが発達するとはどういうこと？	(1)イ	p. 156～159	
2編2章7節	子どもの生活で気をつけたいことは？	(1)イ	p. 160～161	
2編2章8節	子どもにとっての遊びとは？	(1)イ	p. 162～163	
2編2章9節	親になるとはどういうこと？	(1)イ	p. 164～165	
2編3章1節	いのちと暮らしを守るには？	(1)エ	p. 168～169	6
2編3章2節	支えあいのしくみはどうなっているか？	(1)エ	p. 170～171	
2編3章3節	高齢者とそれを支えるしくみはどうなっているか？	(1)ウ・エ	p. 172～175	
2編3章4節	貧困とそれを支えるしくみの現状は？	(1)エ	p. 176～177	
2編3章5節	障がい者の現状とそれを支えるしくみは？	(1)エ	p. 178～179	
2編3章6節	福祉のあり方はどう変わっているか？	(1)エ	p. 180～181	
明日に向けて	生活設計—私の人生・私の可能性—	(3)	p. 184～185	4
明日に向けて	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	(3)	p. 186～189	
			計	60